

zoom-zoom
zoom-zoom



マツダ 会社概況 2014

MAZDA COMPANY PROFILE 2014

目 次 Contents

- 1 はじめに
- 2 構造改革プランとブランド価値経営
- 3 会社の概要と実績
- 5 役員
- 7 主な子会社・関連会社
- 9 研究開発
- 地域別の活動
- 10 日本
- 13 北米
- 15 欧州
- 17 中国
- 19 アジア・大洋州
- 21 カリブ・中南米・中近東・アフリカ
- 23 環境・安全技術 デザイン
- 25 社歴

はじめに

企業ビジョン (1999年12月制定)

マツダは1999年、「企業ビジョン」を制定しました。「企業ビジョン」は、「Vision(企業目標)」、「Mission(役割と責任)」、「Value(マツダが生み出す価値)」の3つの要素で構成され、マツダとマツダの社員が目指すもの、その役割と責任、それをどのような価値観をもって達成するのかを表しています。

■ Vision

新しい価値を創造し、最高のクルマとサービスにより、お客様に喜びと感動を与え続けます。

■ Mission

私たちは情熱と誇りとスピードを持ち、積極的にお客様の声を聞き、期待を上回る創意に富んだ商品とサービスを提供します。

■ Value

私たちは誠実さ、顧客志向、創造力、効率的で迅速な行動を大切に、意欲的な社員とチームワークを尊重します。環境と安全と社会に対して積極的に取り組みます。そしてマツダにつながる人々に大きな喜びを提供します。

マツダブランドシンボル (1997年6月制定)

「自らをたゆまず改革し続けることによって、力強く、留まることなく発展していく」というブランドシンボル制定のマツダの決意を、未来に向けて羽ばたくMAZDAの<M>の形に象徴しています。



マツダコーポレートマーク (1975年制定)

1975年のCI(Corporate Identity: コーポレート・アイデンティティ)導入を機に、コミュニケーションの核となる企業シンボル(マツダシンボル)として制定しました。その後、1997年のブランドシンボル制定に伴い、可読性を生かした「マツダコーポレートマーク」と位置づけています。

mazda

「マツダ」の由来と意味

社名「マツダ」は、西アジアでの人類文明発祥とともに誕生した神、アフラ・マズダー(Ahura Mazda)に由来します。この叡智・理性・調和の神を、東西文明の源泉的シンボルかつ自動車文明の始原的シンボルとして捉え、世界平和を希求し自動車産業の光明となることを願って名付けられました。それはまた、自動車事業を始めた松田重次郎(じゅうじろう)の姓にもちなんでいます。

マツダのブランドメッセージ “Zoom-Zoom(ズーム・ズーム)*”

*日本語の「ブーブー」(車が動くときの音)を意味する英語

マツダ独自の創造性と革新性で、子どもの時に感じた動くことへの感動を愛し持ち続ける人々に、「心がときめくドライビング体験」を提供したいというマツダの想いを示した言葉です。

構造改革プランとブランド価値経営

構造改革プラン

昨今の市場動向及び販売環境や為替の円高修正など事業環境の変化を踏まえ、2016年3月期の経営指標を見直しました。
(2014年4月発表)

1 SKYACTIVによるビジネス革新

SKYACTIVは技術面の変革のみならず、ビジネスそのものの構造改革を牽引します。

卓越したデザイン、優れた環境・安全性能に基づく圧倒的な商品力により、販売奨励金に頼らない正価販売と台数成長の両立を実現しています。

2016年3月期 経営指標

グローバル販売台数	152万台
営業利益	2,300億円
売上高営業利益率	7%以上

為替前提: USD 100円 / ユーロ 135円

2 モノ造り革新によるさらなるコスト改善の加速

商品の開発効率化、生産設備投資の改善により、「CX-5」からスタートしている新世代商品群では、走行性能と燃費性能だけでなく、開発・生産コストも大幅に改善します。

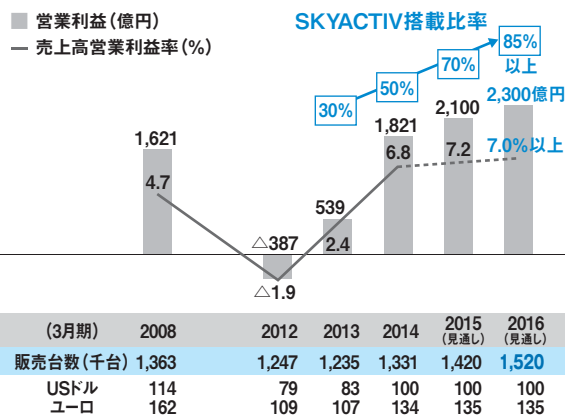
3 新興国事業強化とグローバル生産体制の再構築

現地生産の拡大、販売ネットワークの強化、商品ラインナップの拡充など、新興国の経済成長を取り込む施策を通じて、ビジネスの強化を図ります。
また、グローバル生産体制の再構築により、国内生産体制は維持しつつ海外生産比率を増やすことで、為替耐性の強化を図ります。

4 グローバルアライアンスの推進

ビジネスおよびブランド価値をさらに強化するために、商品・技術・地域ごとに最適な補完関係を実現する提携戦略を積極的に推進していきます。
SKYACTIVパートナーを含めた他社への商品・技術の供与についてもさらに進めてまいります。

利益成長イメージ



ブランド価値経営

マツダは、品質、商品、販売、アフターサービス、コミュニケーション、人などのあらゆる接点でお客様の期待を超える価値を、カーライフを通じて提供し続けることで、お客様の人生をより豊かにし、お客さまとの間に特別な絆を持ったブランドになることを目指します。そのため、現在、全社一丸となって「ブランド価値経営」を推進しています。

マツダブランド価値経営の推進

マツダブランド価値の提供
「走る歓び」を感じる
マツダらしい商品／サービス
(走り／デザイン／環境・安全性能／カスタマーケア)
の提供を通じてお客様満足度を最大化

- ・SKYACTIVモデルの拡充
- ・正価販売と台数成長を両立
- ・商品／ブランド宣伝強化

- ・将来への成長投資の継続
- ・安定的な収益構造の実現
- ・株主還元の着実な向上

SKYACTIV技術搭載車など「走る歓び」を感じる「マツダらしい魅力ある商品とサービス」の提供を通じて、お客様の満足の最大化を目指します。そのために、今後もSKYACTIVモデルの更なる拡充によって多くのお客様にマツダ車ならではの魅力を感じていただける商品をお届けします。

また、お客様に商品価値を評価いただくことで正価販売を実現し、お客様の愛車の価値の維持・向上を図りながら、台数成長を実現します。加えて、広告宣伝によりブランドプレゼンスを構築・強化することで、お客様がマツダブランドにより特別な絆を感じていただけるようにします。

お客様の期待を超える価値を提供し続けることで、「信頼され、選ばれ続ける」ブランドになることを目指す「ブランド価値経営」により、強固な顧客基盤と安定的な収益構造を確立し、更なる企業価値の向上を目指します。

会社の概要と実績

会社概要

(2014年3月31日時点)

社 名	マツダ株式会社(英訳名: Mazda Motor Corporation)
会 社 設 立	大正9年(1920年)1月30日
本 社	〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3番1号
代 表 者	代表取締役 社長兼CEO 小飼 雅道
主な事業内容	乗用車・トラックの製造、販売など
株 式※1	発行可能株式総数 6,000,000,000株 発行済株式総数 2,999,377,399株 株 主 数 125,596名
資 本 金	2,589億5,709万6,762円
従 業 員 数	単体 男性: 19,424名 女性: 1,854名 合計: 21,278名(出向者を含む) 連結 合計: 40,892名
研究開発拠点	本社、マツダR&Dセンター横浜、マツダノースアメリカンオペレーションズ(米国)、マツダモーターヨーロッパ(ドイツ)、中国技術支援センター(中国)
生 産 拠 点	国 内: 本社工場(本社、宇品)、防府工場(西浦、中関)、三次事業所 海 外: 中国、タイ、メキシコ※2、米国※3、コロンビア※4、ジンバブエ、南アフリカ、エクアドル、台湾※5、ベトナム※5、マレーシア※6、ロシア※6
販 売 会 社	国 内: 251社 海 外: 141社 (2013年12月31日時点)
主 要 製 品	四輪自動車、ガソリンレシプロエンジン、ディーゼルエンジン、自動車用手動/自動変速機

※1 2014年8月1日付で実施した株式併合により、発行済株式総数は599,875,479株。同日付で発行可能株式総数を1,200,000,000株に変更。

※2 2014年1月に稼働開始。

※3 2012年8月にMazda6の生産を終了。マツダ保有分の株式をフォード社へ譲渡する方向で協議を進めることで合意。

※4 2014年4月末にマツダ車の生産を終了。

※5 一部車種は現地組立(現地組立モデルの生産台数は公表対象外)

※6 現地組立のみ(生産台数は公表対象外)

グローバル生産(暦年)

(2013年12月31日時点)(台)

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
グローバル	984,520	1,307,540	1,165,723	1,189,472	1,264,814
国 内	717,175	912,836	813,302	845,550	966,628
海 外	267,345	394,704	352,421	343,922	298,186

グローバル販売(暦年)

(2013年12月31日時点)(台)

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
グローバル	1,160,972	1,285,841	1,206,797	1,248,690	1,294,219
国 内	204,373	223,861	189,991	218,359	228,257
北 米	281,439	308,228	319,613	348,687	355,805
欧 州	256,426	217,502	185,320	172,990	196,499
中 国	179,679	239,709	214,799	187,083	186,690
その他	239,055	296,541	297,074	321,571	326,968

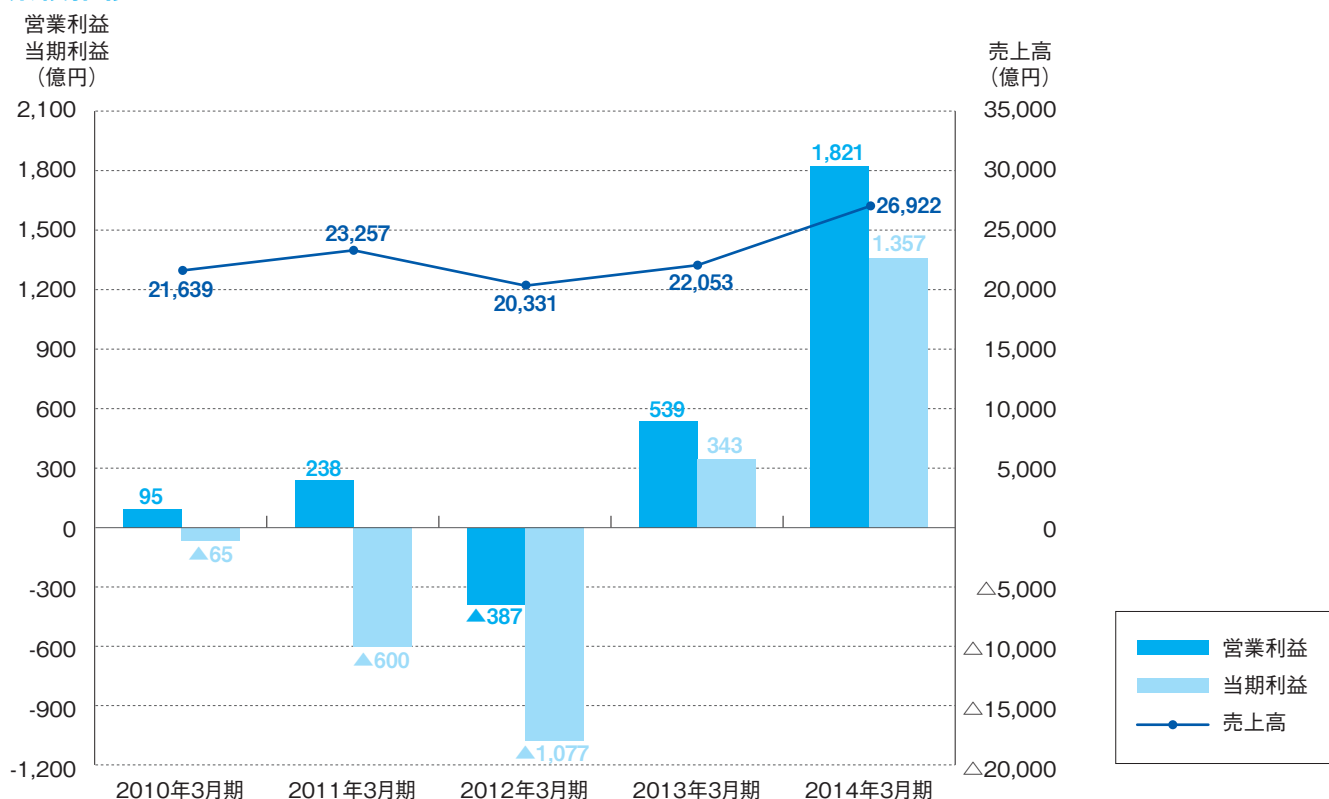
最近の業績(連結ベース) (2014年3月31日時点)

項目	単位	2010年3月期 ('09.4~'10.3)	2011年3月期 ('10.4~'11.3)	2012年3月期 ('11.4~'12.3)	2013年3月期 ('12.4~'13.3)	2014年3月期 ('13.4~'14.3)
売上高	国内 (億円)	5,750	5,415	5,602	5,880	6,557
	海外 (億円)	15,889	17,842	14,729	16,173	20,365
売上高	(億円)	21,639	23,257	20,331	22,053	26,922
営業利益	(億円)	95	238	△ 387	539	1,821
経常利益	(億円)	46	369	△ 368	331	1,407
税引前当期利益	(億円)	△ 73	161	△ 553	391	974
当期利益	(億円)	△ 65	△ 600	△ 1,077	343	1,357
1株あたり当期利益※1	(円)	△ 4.26	△ 33.92	△ 57.80	11.5	45.4
設備投資額	(億円)	298	447	780	772	1,332
減価償却費	(億円)	764	716	688	600	577
研究開発費	(億円)	852	910	917	899	994
総資産	(億円)	19,478	17,718	19,159	19,786	22,460
純資産	(億円)	5,098	4,305	4,744	5,132	6,768
有利子負債残高	(億円)	7,221	6,930	7,781	7,190	7,427
純有利子負債残高	(億円)	3,758	3,702	3,008	2,741	2,630
フリーキャッシュフロー	(億円)	674	16	△ 794	87	163
生産台数	国内 (千台)	828	867	847	879	973
	海外 (千台)	316	411	338	321	296
	(千台)	1,144	1,278	1,185	1,200	1,269
販売台数	国内 (千台)	221	206	206	216	244
	北米 (千台)	307	342	372	372	391
	欧州 (千台)	239	212	183	172	207
	中国 (千台)	196	236	223	175	196
	その他 (千台)	230	277	263	300	293
	(千台)	1,193	1,273	1,247	1,235	1,331

(注)フリーキャッシュフローは、営業活動によるキャッシュフローと投資活動によるキャッシュフローの合計。

※1 2014年8月1日付で実施した株式併合は反映していない。

業績推移



取締役

代表取締役会長



金井 誠太
(かない せいいた)

代表取締役



小飼 雅道
(こがい まさみち)

代表取締役



丸本 明
(まるもと あきら)

取締役



原田 裕司
(はらだ ゆうじ)

取締役



中峯 勇二
(なかみね ゆうじ)

取締役



稲本 信秀
(いなもと のぶひで)

取締役



黒沢 幸治
(くろさわ こうじ)

取締役



坂井 一郎
(さかい いちろう)

取締役



牟田 泰三
(むた たいぞう)

監査役

監査役(常勤)

栃尾 信義 (とちお のぶよし)

河村 裕章 (かわむら ひろふみ)

監査役

赤岡 功 (あかおか いさお)

平澤 正英 (ひらさわ まさひで)

堀田 隆夫 (ほった たかお)

執行役員

(注) ※印は取締役との兼務を示す。

※社長 兼CEO(最高経営責任者)	小飼 雅道 (こがい まさみち)	
※副社長執行役員	丸本 明 (まるもと あきら)	社長補佐、米州事業・企画領域統括
※専務執行役員	原田 裕司 (はらだ ゆうじ)	第二法人販売・財務統括、CSR・環境・グローバル広報担当
	中峯 勇二 (なかみね ゆうじ)	欧州・豪亜・中ア・新興国事業統括、マツダ・サウス・イースト・アジア,Ltd.社長
	稲本 信秀 (いなもと のぶひで)	中国事業・国内営業・第一法人販売統括、マツダ(中国)企業管理有限公司董事長
	黒沢 幸治 (くろさわ こうじ)	第三法人販売・人事・秘書・総務・法務統括、グローバル監査・安全・病院担当

常 務 執 行 役 員	ジェームズ・ジェイ・オサリバン (James J. O' Sullivan)	マツダモーターオブアメリカ, Inc. (マツダノースアメリカンオペレーションズ) 社長兼CEO
	江川 恵司 (えがわ けいし)	新興国事業(中南米)担当、 マツダモートルマヌファクチャリングデメヒコS.A. de C.V. (マツダデメヒコビークルオペレーション) 社長兼CEO
	ジェフリー・エイチ・ガイトン (Jeffrey H. Guyton)	マツダモーターヨーロッパGmbH社長兼CEO
	今井 一基 (いまい かずき)	グローバル購買担当
	光田 稔 (みつだ みのる)	東京本社統括、渉外・法人販売担当、企画・広報担当補佐
	中野 雅文 (なかの まさふみ)	グローバル商品品質・ブランド品質担当
	菫蒲田 清孝 (しょうぶだ きよたか)	グローバル生産・グローバル物流担当、技術本部長
	藤原 清志 (ふじわら きよし)	ビジネス戦略・商品・デザイン・コスト革新担当、R&Dリエゾン室長
	毛籠 勝弘 (もろ まさひろ)	営業領域総括、グローバルマーケティング・カスタマーサービス・販売革新担当
	古賀 亮 (こが あきら)	マツダモーターオブアメリカ, Inc. (マツダノースアメリカンオペレーションズ) 執行副社長 (EVP)
	古玉 尚 (ふるたま たかし)	経営企画・収益管理・グローバルITソリューション担当
	素利 孝久 (そり たかひさ)	研究開発担当、株式会社マツダE&T代表取締役社長
	人見 光夫 (ひとみ みつお)	技術研究所・パワートレイン開発・電気駆動システム開発担当
執 行 役 員	内田 成明 (うちだ なりあき)	防府工場長
	圓山 雅俊 (まるやま まさとし)	本社工場長
	藤賀 猛 (ふじが たけし)	グローバル人事担当、人事室長、安全担当補佐
	藤川 和久 (ふじかわ かずひさ)	購買本部長
	福原 和幸 (ふくはら かずゆき)	国内営業担当、国内営業本部長
	渡部 宣彦 (わたべ のぶひこ)	中国事業担当、中国事業本部長、マツダ(中国)企業管理有限公司執行総裁
	西山 雷大 (にしやま らいた)	株式会社関東マツダ代表取締役社長
	前田 育男 (まえだ いくお)	デザイン本部長
	川上 英範 (かわかみ ひでのり)	ASEANパワートレイン生産準備室長、 マツダパワートレインマニファクチャリング(タイランド) Co., Ltd. 社長兼CEO
	藤本 哲也 (ふじもと てつや)	財務担当、財務本部長
	井上 寛 (いのうえ ひろし)	新興国事業(除く中南米)担当
	吉原 誠 (よしはら まこと)	秘書・総務・法務・コンプライアンス・リスクマネジメント担当、総務・法務室長
	青山 裕大 (あおやま やすひろ)	グローバル販売&マーケティング本部長

主な子会社・関連会社

連結子会社 59社 (2014年3月31日時点)

会社名	所在国	所有率	業務内容
マツダ中販(株)	日本	100.0%	中古自動車販売
(株)マツダオートザム	日本	100.0%	自動車および部品販売
マツダモーターインターナショナル(株)	日本	100.0%	自動車販売
マツダエース(株)	日本	100.0%	防災・運輸・印刷受注
マツダロジスティクス(株)	日本	100.0%	自動車および部品運送
倉敷化工(株)	日本	75.0%	自動車部品製造販売
(株)マツダE&T	日本	100.0%	特装車架装および販売
マツダパーツ(株)	日本	100.0%	自動車部品の販売
(株)函館マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
(株)東北マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
(株)福島マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
(株)北関東マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
(株)甲信マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
(株)関東マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
静岡マツダ(株)	日本	100.0%	自動車および部品販売
東海マツダ販売(株)	日本	100.0%	自動車および部品販売
(株)北陸マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
(株)京滋マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
(株)関西マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
(株)西四国マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
(株)九州マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
(株)南九州マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
沖縄マツダ販売(株)	日本	100.0%	自動車および部品販売
マツダモーターオブアメリカ, Inc.	米国	100.0%	自動車および部品販売
マツダカナダ Inc.	カナダ	100.0%	自動車および部品販売
マツダモートルデメヒコS. de R.L. de C.V.	メキシコ	100.0%	自動車および部品販売
マツダセルヴィシオスデメヒコS. de R.L. de C.V.	メキシコ	100.0%	マツダモートルデメヒコに対する人材サービス
マツダモートルマヌファクトウリングデメヒコS.A. de C.V.	メキシコ	70.0%	自動車製造販売
マツダモートルオペラシオネスデメヒコS.A. de C.V.	メキシコ	70.0%	マツダモートルマヌファクトウリングデメヒコに対する人材サービス
マツダモータース(ドイツランド) GmbH	ドイツ	100.0%	自動車および部品販売
マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V.	ベルギー	100.0%	自動車および部品販売
マツダモーターヨーロッパGmbH	ドイツ	100.0%	欧州市場の事業統括
マツダオートモビルフランスS.A.S.	フランス	100.0%	自動車および部品販売
マツダモータースUK Ltd.	イギリス	100.0%	自動車および部品販売
マツダスイスS.A.	スイス	100.0%	自動車および部品販売
マツダモートルデボルトガルLda.	ポルトガル	100.0%	自動車および部品販売
マツダモーターイタリア, S.p.A.	イタリア	100.0%	自動車および部品販売
マツダオートモビルズエスパーニャ, S.A.	スペイン	100.0%	自動車および部品販売
マツダオーストリアGmbH	オーストリア	100.0%	自動車および部品販売
マツダモーターロシア, OOO	ロシア	100.0%	自動車および部品販売
マツダオーストラリアPty. Ltd.	オーストラリア	100.0%	自動車および部品販売
コンパニアコロンビアナアウトモトリスS.A.	コロンビア	100.0%	自動車製造販売
マツダモータースオブニュージーランドLtd.	ニュージーランド	100.0%	自動車および部品販売
マツダセールス(タイランド) Co., Ltd.	タイ	96.1%	自動車および部品販売
マツダパワートレインマニファクチャリング(タイランド) Co., Ltd.	タイ	100.0%	自動車部品製造販売
PTマツダモーターインドネシア	インドネシア	100.0%	自動車および部品販売
マツダマレーシアSdn. Bhd.	マレーシア	70.0%	自動車製造(委託生産)・販売
マツダ(中国)企業管理有限公司	中国	100.0%	中国市場の事業統括
マツダサザンアフリカ(Pty)Ltd	南アフリカ	100.0%	自動車および部品販売
台湾マツダ汽車股份有限公司	台湾	100.0%	自動車および部品販売
マツダデコロンビアS.A.S.	コロンビア	100.0%	自動車および部品販売
その他 8社	—	—	—

持分法適用会社 15社 (2014年3月31日時点)

会社名	所在国	所有率	業務内容
トーヨーエイトック(株)	日本	30.0%	工作機械製造販売
(株)日本クライメイトシステムズ	日本	33.3%	自動車部品製造販売
ヨシワ工業(株)	日本	33.3%	自動車部品製造販売
(株)サンフレッチェ広島	日本	17.1%	プロサッカー球団運営
(株)マツダプロセシング中国	日本	29.0%	納車点検・架装
SMMオートファイナンス(株)	日本	40.0%	自動車販売金融事業
MCMエネルギーサービス(株)	日本	40.0%	電力・蒸気の供給販売
マツダソラーズマヌファクトゥリングルースLLC	ロシア	50.0%	自動車製造販売
オートアライアンス(タイランド) Co., Ltd.	タイ	50.0%	自動車製造販売
長安マツダ汽車有限公司	中国	50.0%	自動車製造販売
長安フォードマツダエンジン有限公司	中国	25.0%	自動車部品製造販売
一汽マツダ汽車販売有限公司	中国	40.0%	自動車および部品販売
その他 3社	—	—	—

研究開発拠点

世界の市場動向、先端的な技術動向を迅速かつ的確に把握し、それぞれの市場特性にマッチした個性的でイノベティブな商品開発を推進しています。そのため、日米欧中に研究開発拠点を置いています。



	名 称	所在地	主な研究内容
日 本	本社 研究開発部門	広島県安芸郡府中町	・商品、技術企画 ・デザイン開発 ・商品開発および育成 ・重要新技術の先行研究
	マツダR&Dセンター横浜	神奈川県横浜市 神奈川区守屋町	・先行商品の企画 ・先行デザインの調査研究、開発 ・重要新技術の先行研究
米 国	マツダノースアメリカン オペレーションズ(略称: MNAO)※1	カリフォルニア州 アーバイン	・北米市場における技術／市場動向などの調査、研究 ・北米市場におけるデザインの開発 ・北米市場における商品適合性評価
		ミシガン州 フラットロック	
欧 州	マツダモーターヨーロッパ(略称: MME)	ドイツ ヘッセン州 オーバーウァゼル	・欧州市場における技術／市場動向などの調査、研究 ・欧州市場におけるデザインの開発 ・欧州市場における商品適合性評価
中 国	マツダ(中国)企業管理有限公司 中国技術支援センター(略称: MCO-CESC)	上海市	・中国市場における技術／市場動向などの調査、研究

※1 「マツダモーターオブアメリカ,Inc.」「マツダ・モートル・デ・メヒコS. de R.L. de C.V.」を総称して「マツダノースアメリカンオペレーションズ(MNAO)」と呼んでいる。

総合自動車試験場

名 称	所在地	開 設	土地面積	主な研究内容
三次自動車試験場	広島県三次市	1965年 6月	1,677千㎡	新商品の基本性能開発・育成の拠点として、クルマに要求される、走る・曲がる・止まるの走行テストを実施するとともに、大型の試験設備を駆使して、安全技術、環境技術の開発に取り組んでいます。
美祢自動車試験場	山口県美祢市	2006年 5月	603千㎡	三次自動車試験場にはないテストコースを新設し、操縦安定性の限界テスト等、車の商品性向上に寄与しています。
北海道剣淵試験場	北海道上川郡剣淵町	1990年 1月	4,700千㎡	積雪路面での4WD・ABS・TCS※2・DSC※3など、安全走行システムの開発テストや、氷・雪害などに対する技術開発・商品性能向上等、寒冷地特有のテストを行っています。
北海道中札内試験場	北海道河西郡中札内村	2002年 1月	206千㎡	さまざまな気象環境条件の下での、車両の性能を開発するための北海道内2番目の試験場です。主に、凍結路面でのABS・TCS・DSCなどの安全走行システムの開発テストを行っています。

※2 TCS(トラクションコントロールシステム):路面、および走行状況に即応して駆動力を最適化する機構。

※3 DSC(ダイナミック・スタビリティ・コントロール):4輪ABS(アンチロックブレーキシステム)とトラクションコントロールの機能を統合し、エンジン出力制御と4輪個別の制動力を最適に制御することによって、クルマの横滑り防止を図る機構である。滑りやすい路面でのコーナリングや、危険回避のための急ハンドル操作時などにも、安定した走行姿勢を保つ。

日本

・マツダは、1931年に3輪トラックの生産を開始し、自動車事業をスタートしました。1960年には軽自動車「R360クーペ」の生産を開始し、乗用車部門へ本格的に参入しました。

・マツダは広島と防府の2拠点に工場を持ち、独自のフレキシブルな高品質・同期生産ラインを構築しています。SKYACTIV技術搭載車の販売拡大へ対応するため、2014年末までに、エンジンおよびトランスミッション工場の生産能力を増強します。



日本での生産活動 (2013年12月31日時点)

生産拠点概要

所在地	名 称	地 区	生産品目	生産能力	操業開始	土地面積
広島県安芸郡 府中町	本社工場	本社	ガソリンレシプロエンジン、自動車用自動変速機		1931年 3月	551千㎡
		宇品 宇品第1(U1)工場	デミオ※1、MPV、CX-9※2、ロードスター、ベリーサ、ビアンテ、CX-5、ボンゴバン	274,200台/年	1966年11月	1,685千㎡
		宇品 宇品第2(U2)工場	プレマシー、CX-5	240,600台/年	1972年12月	
			ガソリンレシプロエンジン、ディーゼルエンジン		1964年12月	
広島県三次市	三次事業所		ガソリンレシプロエンジン		1974年 5月	1,677千㎡
山口県防府市	防府工場	西浦 防府第1(H1)工場	アクセラ	240,600台/年	1982年 9月	792千㎡
		西浦 防府第2(H2)工場	アテンザ	240,600台/年	1992年 2月	
		中関	自動車用自動変速機、自動変速機		1981年12月	537千㎡
プレス工業株式会社	尾道工場		ボンゴトラック			

(注) 本社地区には、本社周辺の所在地(刈崎地区)を含む。三次事業所は自動車試験場およびエンジン工場用地の合計。

※1 新型デミオ(2014年7月から生産)は、防府第1工場で生産。

※2 輸出用のみ。

車種別国内生産台数一累計

(台)

車 名	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	生産累計台数
デミオ	145,384	159,079	152,675	131,862	108,368	2,042,304
アクセラ	325,002	383,285	303,677	305,107	283,175	3,562,742
プレマシー	60,125	82,109	97,102	54,669	50,062	1,029,820
アテンザ	48,328	76,498	57,403	56,404	148,854	1,363,640
MPV	7,091	6,812	6,206	3,632	1,957	1,080,386
CX-5	-	-	3,777	204,220	294,310	502,307
CX-7	35,831	89,099	98,333	4,909	1,000	423,273
CX-9	29,104	50,157	45,064	35,987	36,686	288,505
ロードスター	19,341	20,554	14,995	15,400	11,639	939,130
RX-8	2,970	2,801	1,233	2,131	0	193,318
ベリーサ	10,271	10,381	7,801	5,944	4,035	106,984
ビアンテ	9,031	12,148	9,794	10,029	10,748	65,307
トリビュート/エスケープ	1,120	400	-	-	-	121,516
その他	0	0	0	0	0	22,120,237
計	693,598	893,323	798,060	830,294	950,834	33,839,469
商用車						
ボンゴ(バン・トラック)	19,164	17,311	15,242	15,256	15,794	2,024,513
ボンゴブローニイ(バン・トラック)	2,677	1,457	-	-	-	860,308
タイタン・タイタンダッシュ	1,736	745	-	-	-	1,723,153
その他	0	0	-	-	-	7,394,844
計	23,577	19,513	15,242	15,256	15,794	12,002,818
総合計	717,175	912,836	813,302	845,550	966,628	46,808,915
内数						
ロータリーエンジン搭載車	2,970	2,801	1,233	2,131	0	1,997,365
ディーゼルエンジン搭載車	61,663	75,270	47,729	79,014	130,679	5,030,402

地域別の活動

日本での販売活動

主要販売網

(2013年12月31日時点)

	販売会社数	店舗数
マツダ／マツダアンフィニ系	49	819
マツダオートザム系	202	225
合 計	251	1,044

チャネル別販売車種

	登録乗用車								軽乗用車				商用車					
	デミオ	アクセラ	プレマシー	アテンザ	MPV	CX-5	ロードスター	ベリーサ	ビアンテ	キャロル	フレア	フレアワゴン	フレアクロスオーバー	スクラムワゴン	ボンゴバン・トラック	タイタン	ファミリアバン	スクラムバン・トラック
マツダ／マツダアンフィニ系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
マツダオートザム系	●	●	●		●	●		●	●	●	●	●	●	●	●			●

車名別販売台数

(2013年12月31日時点)

車 名		2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
乗 用 車	デミオ	55,614	65,950	61,735	57,819	43,584
	アクセラ	26,769	26,725	18,927	16,307	17,981
	プレマシー	15,202	25,553	20,437	15,233	17,776
	アテンザ	7,398	7,105	4,588	5,190	22,382
	MPV	7,033	6,239	4,908	3,015	1,559
	CX-5	-	-	-	35,408	38,512
	CX-7	572	641	568	33	1
	ロードスター	1,947	1,120	1,104	941	768
	RX-8	1,515	963	938	1,848	289
	ベリーサ	10,162	10,609	7,575	6,216	4,227
	ビアンテ	10,864	11,909	9,659	8,740	8,490
	その他	0	0	0	0	0
	登録車	137,076	156,814	130,439	150,750	155,569
	キャロル	8,243	11,516	10,081	10,468	8,968
	AZ-ワゴン/フレア	27,428	24,786	21,673	24,322	20,896
	AZ-オフロード	485	398	487	398	443
	スクラムワゴン	2,484	2,215	2,824	2,386	1,761
	フレアワゴン	-	-	-	4,103	14,356
	その他	1	0	0	0	0
	軽自動車	38,641	38,915	35,065	41,677	46,424
	計	175,717	195,729	165,504	192,427	201,993
商 用 車	ボンゴ(バン・トラック)	9,872	10,170	9,241	9,980	9,920
	タイタン・タイタンダッシュ	4,061	2,997	2,173	2,332	2,437
	ファミリア(バン)	2,742	2,881	2,575	2,674	2,212
	その他	1,359	1,002	75	1	0
	登録車	18,034	17,050	14,064	14,987	14,569
	スクラム(バン・トラック)	10,622	11,082	10,423	10,945	11,694
	軽自動車	10,622	11,082	10,423	10,945	11,694
計		28,656	28,132	24,487	25,932	26,263
総 合 計		204,373	223,861	189,991	218,359	228,256

(注) 一部速報値を確報値に更新。フォードブランド車は除く。

※1 スクラムワゴンは2007年1月より商用車から乗用車に分類変更した。

輸出活動

(2013年12月31日時点)

仕向け地域別輸出台数

(台)

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
北米	206,628	290,660	262,392	323,170	355,094
ヨーロッパ	190,133	206,785	182,905	160,343	191,607
オセアニア	68,978	73,370	83,882	98,462	99,884
その他	94,087	159,124	121,398	89,815	141,098
中近東	34,692	56,533	27,524	17,903	33,908
アジア	23,584	47,605	38,028	31,463	41,381
アフリカ	6,361	9,014	5,010	3,851	5,600
中南米	29,450	45,972	50,836	36,598	60,209
総合計	559,826	729,939	650,577	671,790	787,683

車名別輸出台数

(台)

乗 用 車	車 名	海外名	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
	デミオ	Mazda2	92,418	89,872	91,010	76,996	65,699
	アクセラ	Mazda3	295,594	356,611	284,561	290,723	263,498
	プレマシー	Mazda5	44,823	54,825	59,015	38,483	29,232
	アテンザ	Mazda6	42,095	68,457	53,298	42,759	123,246
	MPV	Mazda8	179	678	938	1,311	470
	CX-5	Mazda CX-5	-	-	3,486	164,003	253,691
	CX-7	Mazda CX-7	34,597	87,635	98,507	6,058	1,000
	CX-9	Mazda CX-9	28,761	49,685	45,173	36,157	36,804
	ロードスター	Mazda MX-5 ※2	17,185	19,146	14,327	13,943	11,294
	RX-8	Mazda RX-8	1,454	1,845	262	54	0
	ビアンテ	Mazda Biante	-	-	-	1,303	2,749
	トリビュート／エスケープ	Mazda Tribute／Ford Escape	1,180	400	0	0	0
	その他	Others	0	0	0	0	0
計			558,286	729,154	650,577	671,790	787,683
商用車計			1,540	785	0	0	0
総合計			559,826	729,939	650,577	671,790	787,683

(注) 海外生産用部品(KDセット)を除く。

※2 北米向けには「Miata」のサブネームがつく。

地域別の活動

北米

- ・マツダは1968年にカナダ、1971年に米国にて現地法人を設立し、北米でのマツダ車の販売を開始しました。
- ・メキシコでは、住友商事との合併生産拠点を2014年1月に操業を開始しました。



統括拠点

(2013年12月31日現在)

国／地域名	名 称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
米 国	マツダノースアメリカンオペレーションズ Mazda North American Operations (略称:MNAO) ※1	① カリフォルニア州 アーバイン	1997年10月	—	自動車・部品の卸売販売、北米市場における技術動向などの調査・研究、デザインの開発、商品適合性評価	—
		② ミシガン州フラットロック				

※1 「マツダモーターオブアメリカ, Inc.」「マツダ・モートル・デ・メヒコ, S. de R.L. de C.V.」を総称して「マツダノースアメリカンオペレーションズ(MNAO)」と呼んでいる。

生産拠点

(2013年12月31日時点)

国／地域名	名 称	所在地	マツダ車 生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
米 国	② オートアライアンス・インターナショナル, Inc. ※1 AutoAlliance International, Inc. (略称: AAI)	ミシガン州 フラットロック	1987年 9月 ※2	—	— ※3	マツダ 50% フォード 50%
メキシコ	③ マツダデメヒコビークルオペレーション ※4 Mazda de Mexico Vehicle Operation (略称: MMVO)	グアナファト州 サラマンカ	— ※5	2,629名	— ※6	マツダ 70% 住友商事 30%

※1 マツダ保有分のAAI株式をフォード社へ譲渡する方向で協議を進めることで合意。

※2 マツダモーターマニュファクチャリングUSAコーポレーション(略称: MMUC)としてマツダ車生産開始。1992年6月に現社名に名称変更。

※3 2012年8月にアテンザの生産を終了。

※4 「マツダ モートル マヌファクトウリング デ・メヒコ S.A. de C.V. Mazda Motor Manufacturing de Mexico S.A. de C.V. (略称: MMMdM)」および「マツダモートルオペラシオネスデメヒコ S.A. de C.V. (略称: MMOM)」の総称

※5 2014年1月に生産開始。

※6 2014年1月にアクセラ、同年10月にデミオを生産開始

販売拠点

(2013年12月31日現在)

国／地域名	名 称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
米 国	マツダモーターオブアメリカ, Inc. Mazda Motor of America, Inc.	カリフォルニア州アーバイン	1971年 2月	741名	マツダ 100%
カナダ	マツダカナダ, Inc. Mazda Canada Inc.	オンタリオ州リッチモンドヒル	1968年 7月	148名	マツダ 100%
メキシコ	マツダ・モートル・デ・メヒコ, S. de R.L. de C.V. Mazda Motor de Mexico, S. de R.L. de C.V.	メキシコシティ	2004年12月	40名	マツダ 99% マツダモーターインターナショナル 1%



Mazda3(メキシコ生産モデル)



マツダメヒコビークルオペレーション(MMVO)外観

生産台数

(2013年12月31日時点)(台)

国／地域名	名 称	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
米 国	AAI	32,065	45,138	39,546	37,563	—
	フォード カンザスシティ工場	7,396	9,273	3,977	—	—
合 計		39,461	54,411	43,523	37,563	—

(注) マツダブランド名で生産された台数を示す。

販売台数

(2013年12月31日時点)(台)

市 場	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
米 国	207,767	229,566	250,426	277,047	283,947
カナダ	73,672	78,662	69,187	71,640	71,858
メキシコ	18,914	25,117	29,860	25,424	33,348
合 計	300,353	333,345	349,473	374,111	389,153

市場およびディストリビューター数

(2013年12月31日時点)

地 域	北米	
市 場	ディストリビューター数	拠点数
米 国	1	635
カナダ	1	162
メキシコ	1	39
合 計	3	836

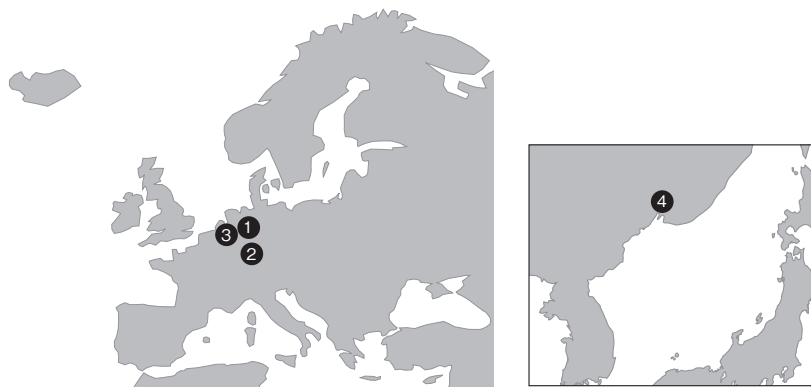
主要販売車種

地 域	北米		
市 場	米国	カナダ	メキシコ
デミオ	●	●	●
アクセラ	●	●	●
プレマシー	●	●	●
アテンザ	●	●	●
CX-5	●	●	●
CX-9	●	●	●
ロードスター	●	●	●

地域別の活動

欧州

- ・マツダは、1967年に、欧州でマツダ車の販売を開始し、1972年にドイツで現地法人を設立しました。
- ・マツダは、2000年頃より欧州主要国で販売網の再構築に着手し、各国のディストリビューターをマツダ直轄下に置きました。効率的な販売・マーケティング活動や、欧州での一貫した戦略・施策を推し進めています。



統括拠点

(2013年12月31日時点)

国／地域名	名 称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
ドイツ	① マツダモーターヨーロッパGmbH Mazda Motor Europe GmbH (略称:MME)	ノルトラインウエスト ファーレン州レバークーゼン	1998年 3月	275名	事業所 販売	マツダモーター ロジスティクス ヨーロッパN.V. 100%
	② (European R&D Centre)	ヘッセン州オーバーヴァゼル	1987年12月		研究開発	
ベルギー	③ マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. Mazda Motor Logistics Europe N.V. (Vehicles and Parts Distribution Center)	アントワープ州ウィルブローク	1998年 8月	352名	事業所 物流、販売	マツダ 100%

生産拠点

(2013年12月31日時点)

国／地域名	名 称	所在地	マツダ車 生産開始時期	従業員数	主な生産車種 ※1	資本構成
ロシア	④ マツダソラーズマヌファクチュリングルース MAZDA SOLLERS Manufacturing Rus(略称:MSMR)	ブリモリスキー州 ウラジオストク	2012年10月	833名	CX-5、 アテンザ	マツダ 50% ソラーズ 50%

※1 現地組立のみ(生産台数は公表対象外)

販売拠点

(2013年12月31日時点)

国／地域名	名 称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
ドイツ	マツダモーターズ(ドイツランド) GmbH Mazda Motors (Deutschland) GmbH	ノルトラインウエスト ファーレン州レバークーゼン	1972年11月	154名	マツダ 75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
オーストリア	マツダオーストリアGmbH Mazda Austria GmbH	クラゲンフルト	1981年 7月	104名	マツダ 75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
ポルトガル	マツダモートルデポルトガルLda. Mazda Motor de Portugal Lda.	リスボン	1995年 2月	12名	マツダ 75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
イタリア	マツダモーターイタリア,S.p.A. Mazda Motor Italia S.p.A.	ローマ	1999年12月	49名	マツダ 75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
スペイン	マツダオートモービルズエスパーニャ,S.A. Mazda Automoviles Espana, S.A.	マドリッド	2000年 2月	43名	マツダ 75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
フランス	マツダオートモビルフランスS.A.S Mazda Automobiles France S.A.S	イヴリーヌ県 サン・ジェルマン・アン・レイ	2001年 2月	44名	マツダ 75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
スイス	マツダスイスS.A. Mazda (Suisse) S.A.	ブチランシー	2001年 2月	39名	マツダ 75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
イギリス	マツダモーターズ UK Ltd. Mazda Motors UK Ltd.	ケント州ダートフォード	2001年 5月	87名	マツダ 75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
デンマーク	マツダモーターデンマーク Mazda Motor Denmark	レズオウア	2003年 4月	16名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店

販売拠点

(2013年12月31日現在)

国／地域名	名 称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
ノルウェー	マツダモーターノルウェー Mazda Motor Norge	コルボン	2004年 4月	15名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
スウェーデン	マツダモータースウェーデン Mazda Motor Sweden	クングスバック	2004年 4月	15名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
ロシア	マツダモーターロシア LLC Mazda Motor Rus LLC	モスクワ	2005年12月	77名	マツダ 100%
アイルランド	マツダモーターアイルランド Mazda Motor Ireland	ダブリン	2006年 7月	8名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
チェコ	マツダモーターチェコ Mazda Motor Czech	ブラハ	2006年10月	13名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
スロバキア	マツダモータースロバキア Mazda Motor Slovakia	ブラチスラバ	2006年10月	4名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
ベルギー・ ルクセンブルク	マツダモーターベラックス Mazda Motor Belux	ウィルブローク	2007年 4月	29名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
ハンガリー	マツダモーターハンガリー Mazda Motor Hungary Kft	ブダペスト	2008年 4月	11名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパ N.V. 100%
クロアチア	マツダモータークロアチア Mazda Motor Croatia d.o.o.	ザグレブ	2008年 4月	11名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパ N.V. 100%
スロベニア	マツダモータースロベニア Mazda Motor Slovenija d.o.o.	リュブリャナ	2008年 4月	7名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパ N.V. 100%
ポーランド	マツダモーターポーランド Mazda Motor Poland Co., Ltd.	ワルシャワ	2008年 5月	20名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
トルコ	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. メルケジ・ベルチカ・トルキエ・イスタンブール・シュベシ Mazda Motor Logistics Europe N.V. Merkezi Belcika Turkiye Istanbul Subesi	イスタンブール	2008年 6月	12名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
オランダ	マツダモーターネーデルランド Mazda Motor Nederland	ワディンクスフェーン	2008年10月	30名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店

販売台数

(2013年12月31日時点) (台)

市 場	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
欧 州	256,426	217,502	185,320	172,990	196,499

市場およびディストリビューター数 (2013年12月31日時点)

地 域	市場数	ディストリビューター数	拠点数
欧 州	41	31	1,868

主要販売車種

地 域	欧 州							
市 場	ドイツ	ロシア	イギリス	オーストリア	スイス	フランス	イタリア	スペイン
デミオ	●	●	●	●	●	●	●	●
アクセラ	●	●	●	●	●	●	●	●
プレマシー	●	●	●	●	●	●		●
アテンザ	●	●	●	●	●	●	●	●
CX-5	●	●	●	●	●	●	●	●
CX-9		●						
ロードスター	●	●	●	●	●	●	●	●

地域別の活動

中国

・マツダは、2001年より本格的に中国市場に進出しました。2005年に現地法人を設立し、2つの販売チャネルである「一汽マツダ」「長安マツダ」を統括して、一貫したブランド戦略を展開しています。

・2014年4月に新型「アテンザ」を長春工場で、新型「アクセラ」を南京工場で生産を開始しました。



統括拠点

(2013年12月31日現在)

国／地域名	名 称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
中 国	マツダ(中国)企業管理有限公司 ① Mazda Motor (China) Co., Ltd. (略称:MCO)	上海市 浦東新区	2005年 1月	116名	中国市場の事業統括	マツダ 100%
	マツダ(中国)企業管理有限公司 北京分公司 ② Mazda Motor (China) Co., Ltd. Beijing Branch (略称:MCO-Beijing)	北京市 朝陽区	2007年 11月		MCO支社	—
	マツダ(中国)企業管理有限公司 中国技術支援センター ③ Mazda Motor (China) Co., Ltd. China Engineering Support Center (略称:MCO-CESC)	上海市 嘉定区	2005年 8月		MCO支社・事務所・ワークショップ 技術動向などの調査、研究、およびR&D、 購買、品質、サービス領域の技術支援	—

生産拠点

(2013年12月31日現在)

国／地域名	名 称	所在地	マツダ車 生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
中 国	一汽乗用車有限公司 ③ FAW Car Co., Ltd. (略称:FCC)	吉林省 長春市	2003年 3月	—	アテンザ、MPV	現地 100%
	長安マツダ汽車有限公司 ④ Changan Mazda Automobile Co., Ltd. (略称:CMA)	江蘇省 南京市	2007年10月	3,937名	デミオ、アクセラ、 CX-5	長安汽車 50% マツダ 50%
	長安フォードマツダエンジン有限公司 ④ Changan Ford Mazda Engine Co., Ltd. (略称:CFME)	江蘇省 南京市	2007年 4月 (2005年9月設立)	2,500名	自動車用エンジン	長安汽車 50% マツダ 25% フォード 25%



Mazda6 ATENZA(中国生産モデル)



Mazda3 AXELA(中国生産モデル)

販売拠点

(2013年12月31日現在)

国／地域名	名 称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
中 国	一汽マツダ汽車販売有限公司 FAW Mazda Motor Sales Co., Ltd. (略称:FMSC)	吉林省 長春市	2005年 3月	326名	一汽乗用車 56% マツダ 40% 第一汽車集団 4%
	長安マツダ汽車販売分公司 Changan Mazda Automobile Corporation, LTD. Sales branch (略称:CMAS)	江蘇省 南京市	2007年 4月	257名	長安マツダ汽車 有限公司の販売部門

生産台数

(2013年12月31日時点)(台)

国／地域名	名 称	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
中 国	FCC	101,844	139,635	128,325	102,372	119,441
	CMA	71,944	88,950	84,142	67,097	67,612
合 計		173,788	228,585	212,467	169,469	187,053

(注)マツダブランド名で生産された台数を示す。

販売台数

(2013年12月31日時点)(台)

市 場	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
中 国	179,679	239,709	214,799	187,083	186,690

市場およびディストリビューター数

(2013年12月31日時点)

市 場	ディストリビューター数	拠点数
中 国	2	432

主要販売車種

市 場	中国
デミオ	●
アクセラ	●
プレマシー	●
アテンザ	●
MPV	●
CX-5	●
CX-7	●
CX-9	●
ロードスター	●

地域別の活動

アジア・大洋州

- ・マツダは、1967年に初の海外拠点としてオーストラリアに現地法人を設立し、販売を開始しました。
- ・1998年にフォードとの合弁生産工場にて、ピックアップトラックの現地生産を開始し、その後、「デミオ」、「アクセラ」と生産車種を拡大しています。
- ・タイでは、2015年度上半期から新トランスミッション工場が稼働する予定です。



統括会社

(2013年12月31日時点)

国／地域名	名 称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
タ イ	マツダサウスイーストアジアリミテッド ① Mazda South East Asia, Ltd. (略称:MSEA)	バンコク	2005年 8月	—	ASEAN市場 の事業統括	マツダ 100%

生産拠点

(2013年12月31日時点)

国／地域名	名 称	所在地	マツダ車 生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
台 湾	② 福特六和汽車股份有限公司 Ford Lio Ho Motor Co., Ltd. (略称:FLH)	中歴市	1987年 3月	—	プレマシー、アクセラ	フォード 70% 現 地 30%
タ イ	③ オートアライアンス(タイランド) Co., Ltd. AutoAlliance (Thailand) Co., Ltd. (略称:AAT)	ラヨーン県 イースタン・ シーボード工業団地	1998年 5月※1 (1995年11月設立)	7,222名	デミオ、アクセラ、 BT-50	マツダ 50% フォード 50%
ベトナム	④ ヴィナマツダCo.,LTD Vina Mazda Automobile Manufacturing Co.,LTD	クアンナム省 ヌイタン地区	2011年10月	—	デミオ、アクセラ、 CX-5	現 地 100%
マレーシア	⑤ マツダ・マレーシア Sdn. Bhd. Mazda Malaysia Sdn. Bhd. (略称:MMSB)	スランゴール州 シャーアラム	2012年 9月 設立 ※2	54名	アクセラ、CX-5	マツダ 70% ベルマツ 30%

(注) ヴィナマツダ社は一部車種、マツダマレーシア社は全量現地組立のみ(生産台数は公表対象外)。

※1 乗用車は2009年9月に生産開始。

※2 マツダマレーシア社の設立年月を指す。マレーシアでの組立事業は、現地資本に委託した2011年3月より行っている。

販売拠点

(2013年12月31日時点)

国／地域名	名 称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
オーストラリア	マツダオーストラリアPty Ltd. Mazda Australia Pty Ltd.	ビクトリア州 マウントウエイバリー	1967年 4月	232名	マツダ 100%
ニュージーランド	マツダモーターズオブニュージーランドLtd. Mazda Motors of New Zealand Ltd.	オークランド市 マウントウエリントン	1972年 6月	29名	マツダ 100%
タ イ	マツダセールス(タイランド) Co., Ltd. Mazda Sales (Thailand) Co., Ltd.	バンコク	1990年 6月	153名	マツダ 96.1% KKS 3.9%
インドネシア	PT. マツダモーターインドネシア PT. Mazda Motor Indonesia	ジャカルタ	2006年 2月	83名	マツダ 99.96% MSEA 0.04%
台 湾	台湾マツダ汽車股份有限公司 Mazda Motor Taiwan Co., Ltd.	台北市	2013年12月	39名※3	マツダ 100%

※3 営業開始時点(2014年7月1日)



マツダパワートレインマニュファクチャリング(タイランド) Co., Ltd. (完成予定図)



BT-50 (タイ生産モデル)

生産台数

(2013年12月31日時点) (台)

国／地域名	名 称	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
台 湾	FLH	9,491	6,977	3,471	4,775	5,178
タ イ	AAT	29,408	87,348	75,630	115,815	92,644
ベトナム	ヴィナマツダ	—	—	132	189	641
フィリピン	フォードフィリピン	180	—	—	—	—

(注) マツダブランド名で生産された台数を示す。

販売台数

(2013年12月31日時点) (台)

地 域	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
アジア(中国以外) ※4	33,696	66,980	79,518	110,841	95,252
オセアニア	84,614	92,149	95,144	110,927	111,258

※4 台湾含む。

市場およびディストリビューター数

(2013年12月31日現在)

地 域	市場数	ディストリビューター数	拠点数
アジア(中国以外) ※5	15	15	345
オセアニア	14	14	176

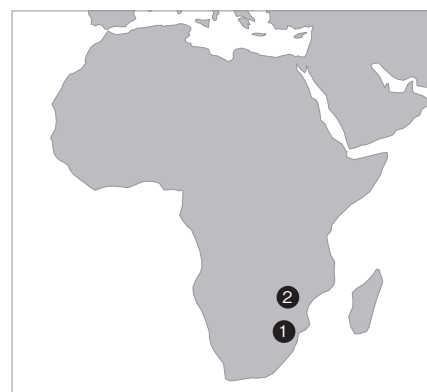
※5 台湾含む。

主要販売車種

地 域	アジア					オセアニア	
市 場	タイ	台湾	インドネシア	マレーシア	フィリピン	オーストラリア	ニュージーランド
デミオ	●	●	●	●	●	●	●
アクセラ	●	●		●	●	●	●
プレマシー		●		●			
アテンザ		●	●	●	●	●	●
MPV			●	●			
CX-5	●	●	●	●	●	●	●
CX-9	●	●	●	●	●	●	●
ロードスター	●		●	●	●	●	●
ビアンテ			●	●			
VX-1			●				
BT-50	●		●	●	●	●	●

地域別の活動

カリブ・中南米※・中近東・アフリカ ※メキシコを除く(北米のページ参照)



生産拠点

(2013年12月31日時点)

国／地域名	名 称	所在地	マツダ車 生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
南アフリカ	① フォードモーターカンパニーオブ サザンアフリカ(Pty) Ltd Ford Motor Company of Southern Africa (Pty) Ltd (略称:FMCSA)	プレトリア	1963年 6月	—	BT-50	フォード 100%
ジンバブエ	② ウィローベールマツダモーターインダストリーズ (PVT) Ltd. Willowvale Mazda Motor Industries (PVT) Ltd. (略称:WMMI)	ハラレ	1980年 7月	150名	BT-50	MOTEC 58% マツダ 25% Workers Trust 9% 伊藤忠商事 8%
コロンビア	③ コンパニアコロンビアナアウトモトリスS.A. ※1 Compania Colombiana Automotriz S.A. (略称:CCA)	ボゴタ	1983年 4月	339名	アクセラ、デミオ、 BT-50	マツダ 95% マツダモーター インターナショナル 5%
エクアドル	④ マヌファクトゥラス アルマドゥリアス イレプエストス エクアトリアノス S.A. Manufacturas, Armaduras y Repuestos Equatorianos S. A. (略称:MARESA)	キト	1986年11月	—	BT-50	現地 100%

※1 2014年4月末にマツダ車の生産を終了。

販売拠点

(2013年12月31日時点)

国／地域名	名 称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
コロンビア	① コンパニアコロンビアナアウトモトリスS.A. ※1 Compania Colombiana Automotriz S.A. (略称:CCA)	ボゴタ	1973年10月	339名	マツダ 95% マツダモーター インターナショナル 5%
南アフリカ	マツダサザンアフリカ(Pty) Ltd Mazda Southern Africa (Pty) Ltd (略称:MSA)	ヨハネスブルグ	2013年 7月	36名※2	マツダ 100%

※1 2014年5月より、販売統括会社「MAZDA DE COLOMBIA S.A.S. (略称:MCOL)」(資本構成:マツダ100%)が営業している。

※2 営業開始時点(2014年10月1日)

生産台数

(2013年12月31日時点)(台)

地 域	名 称	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
南アフリカ	FMCSA	3,725	3,661	3,875	2,481	3,070
ジンバブエ	WMMI	911	257	829	393	23
コロンビア	CCA	3,520	4,517	4,346	3,411	2,103
エクアドル	MARESA	6,861	8,948	8,148	9,826	7,474

(注) マツダブランド名で生産された台数を示す。

販売台数

(2013年12月31日時点)(台)

地 域	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
カリブ・中南米 ※2	33,307	41,109	41,098	33,863	41,496
中近東	51,691	55,102	37,785	30,044	34,932
アフリカ	16,833	16,084	13,669	10,456	10,368

※2 メキシコを除く(北米のページ参照)。

市場およびディストリビューター数

(2013年12月31日時点)

地 域	市場数	ディストリビューター数	拠点数
カリブ・中南米 ※2	36	36	239
中近東	13	13	242
アフリカ	34	29	221

※2 メキシコを除く(北米のページ参照)。

主要販売車種

地 域	カリブ・中南米			中近東			アフリカ
市 場	コロンビア	チリ	エクアドル	イスラエル	サウジアラビア	UAE	南アフリカ
デミオ	●	●	●	●	●	●	●
アクセラ	●	●	●	●	●	●	●
プレマシー		●		●			●
アテンザ	●	●		●	●	●	●
CX-5	●	●	●	●	●	●	●
CX-9	●	●	●		●	●	
ロードスター	●	●			●	●	●
BT-50	●	●	●		●	●	●

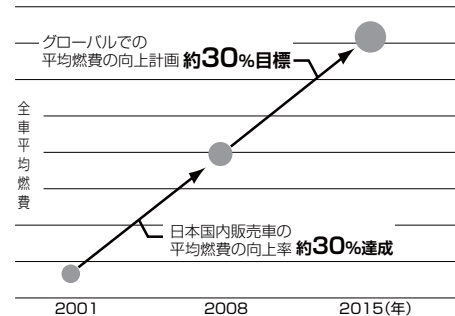
「サステイナブル “Zoom-Zoom” 宣言」 — 未来に向かう長期ビジョン —

2007年3月、マツダは技術開発の長期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言」を策定しました。これは、「いつまでも『ワクワク』するクルマ、『見て乗りたくなる、乗って楽しくなる、そしてまた乗りたくなる』クルマを提供し、クルマも、人も、地球も、みんながワクワクし続けられる、サステイナブルな未来の実現に向けてマツダが取り組むこと」を宣言したものです。それに基づき、マツダは、2015年までにグローバルで販売するマツダ車の平均燃費を、2008年比で30%向上させる計画を発表しています。

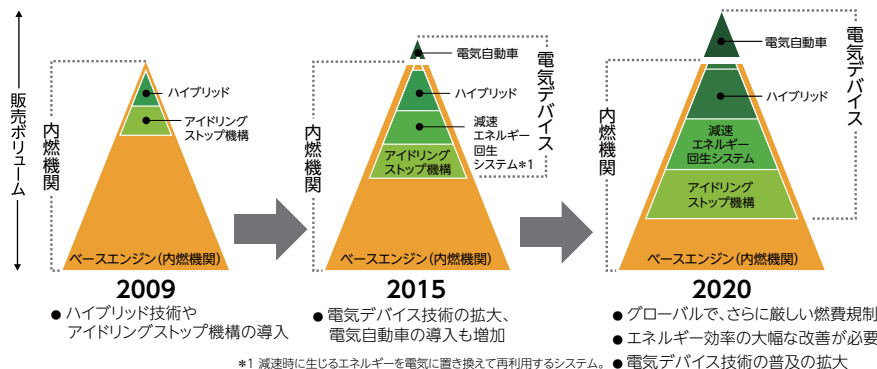
「ビルディングブロック戦略」 — 普及してこそその貢献 —

近年、ハイブリッド車や電気自動車など、新しい電気デバイスを搭載した自動車が登場し、自動車の性能は、エンジン、トランスミッション、ボディ、シャシーなどと、電気デバイスとの総合力で語られる時代になりました。しかし、2020年においても、自動車のパワートレインに占める内燃機関の割合は大きいと予測されています。そこでマツダは、自動車の基本性能である「ベース技術」を優先的に改善した上で、段階的に減速エネルギー回生システムやハイブリッドシステムなどの電気デバイスを導入する「ビルディングブロック戦略」を採用しています。これは、一部の環境対応車に大きく依存することなく、すべてのお客様に、「走る歓び」と「優れた環境・安全性能」をお届けすることで、グローバルで効果的にCO₂の総排出量を削減するアプローチです。

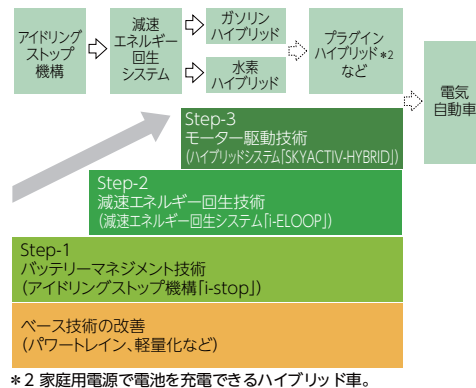
【マツダの平均燃費向上目標】



【環境技術の採用拡大展望】



【ビルディングブロック戦略】



MAZDA SKYACTIV TECHNOLOGY

「SKYACTIV技術」は、サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言に基づいて、「走る歓び」と「優れた環境・安全性能」の高次元での両立をイメージした革新的な次世代技術の総称です。SKYACTIV技術は「ビルディングブロック戦略」に沿って展開される技術の全てを包含しています。

■SKYACTIV-G

高圧縮比エンジンの課題であったノッキング(異常燃焼)を克服し、世界一※1の高圧縮比を実現した新世代高効率直噴ガソリンエンジン。

※1 1.3Lクラス レギュラーガソリンを燃料とする量産乗用車。
(2013年8月現在 マツダ調べ)



■SKYACTIV-D

世界一※2の低圧縮比(14.0)の実現により、尿素SCRやNO_x吸着触媒(LNT)などの高価なNO_x後処理装置なしで、グローバルの排出ガス規制をクリアできる新世代クリーンディーゼルエンジン。

※2 2013年8月現在 マツダ調べ。



■SKYACTIV-Drive

あらゆる方式の利点を集約した高効率かつダイレクト感溢れる6速オートマチックトランスミッション。



■SKYACTIV-MT

軽快なシフトフィールと、大幅な軽量・コンパクト化を実現した新世代マニュアルトランスミッション。



■SKYACTIV ボディ

「走る歓び」を支える高い剛性と、最高レベルの衝突安全性を実現した軽量ボディ。



■SKYACTIV シャシー

ロードスター並みの「人馬一体」感を追求し、「走る歓び」を実現すると同時に快適性、安心感を高めた軽量シャシー。



■i-ELOOP(アイ・イーループ)

蓄電器にキャパシターを採用した減速エネルギー回生システム。キャパシターは、大量の電気を素早く充放電でき、繰り返し使用しても劣化が少ない特徴をもちます。減速時の車両の運動エネルギーを効率よく電力に変換し、クルマの電装品に使用することで、頻繁に加減速がある実用走行時での燃費改善効果が見込めます。

■SKYACTIV-HYBRID

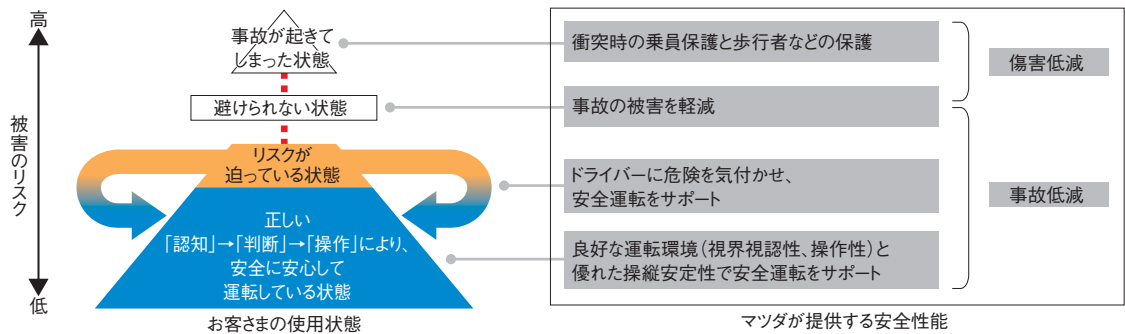
低回転・低負荷時に電気モーターで走行をアシストすることで車全体のエネルギー効率を向上させるシステムです。「i-stop」や「i-ELOOP」を併用することで、さらに高い効率改善(燃費向上)を実現しました。2013年11月に新型「アクセラ」に搭載し日本市場で販売し、「走る歓び」の感動をそのままに、低燃費を実現しています。

Mazda Proactive Safety

マツダは、ドライバー・人間を理解・信頼・尊重することを重視し、以下の考え方で安全技術の研究・開発を行っています。

安全に運転するためには、認知・判断・操作の各ステップで適切に行動することが重要です。運転する環境が変化しても、正しく認知・判断することをサポートし、安全に安心して運転していただきたいと考えています。しかし、人間は時として避けられないミスを起こします。万が一のドライバーのミスにも対応できるように、事故被害を防止・軽減することをサポートする技術を開発・提供していきます。

■マツダが目指す安全性能の考え方



HEADS-UP COCKPIT CONCEPT

安全に運転を楽しむために、運転に集中できる理想のドライビングポジションを実現することが最も大切であると考え、正しい姿勢で安全な運転を追求できるヘッズアップコックピットを開発しました。



- ①センターディスプレイ
ディスプレイをダッシュボード上に設置し、ドライバーは視線を果報に大きく動かすことなく情報を確認できます。シンプルで見やすいアイコンや文字などを採用しています。
- ②コマンダーコントロール
手元を見ることなく操れるよう、ステアリングを握っていた左手を自然に下ろした位置に設置。シンプルで使いやすいボタン配置などを追求しています。
- ③アクティブドライビングディスプレイ
ドライバーの視線移動と目の焦点調節が最小限で済むようにディスプレイを設置し、車速やナビゲーションのルート誘導など走行時に必要な情報を表示。

i-ACTIVSENSE

「i-ACTIVSENSE（アイ・アクティブセンス）」は、「Mazda Proactive Safety」に基づき開発したミリ波レーダーやカメラなどの検知デバイスを用いたマツダの先進安全技術の総称です。事故が避けづらい状況での衝突回避・被害軽減を図るプリクラッシュセーフティ技術に加え、認知支援を行いドライバーの安全運転をサポートするアクティブセーフティ技術で構成されています。2012年11月発売の新型アテンザから採用しています。

「i-ACTIVSENSE」技術一覧

運転支援技術	マツダ レーダークルーズコントロール (MRCC)	先行車との速度差や車間距離を認識し、設定した車速内で車間距離を自動で調整・維持することで、高速道路などでドライバーの負担を軽減します。
認知支援技術	前方衝突警報システム (FOW)	先行車を検知し、ドライバーに衝突の危険性を知らせ、衝突回避をサポートします。
	車線逸脱警報システム (LDWS)	道路上の白線を検知し、車両が意図せず車線を逸脱することを予測してドライバーに警告します。
	リアビークルモニタリングシステム (RVM)	隣(左右)のレーンや後方からの接近車両を検知し、ドライバーに車線変更時の危険を知らせます。
	ハイビームコントロールシステム (HBC)	先行車や対向車を検知し、ヘッドランプのハイビーム・ロービームを自動で切り替え、夜間の視認性を確保し危険回避をサポートします。
	アダプティブフロントライティングシステム (AFS)	ステアリングの角度と車速に応じて、ヘッドランプの向きを自動的にコントロールし、カーブや交差点などで進行方向を早めに照射して夜間時の安全運転をサポートします。
衝突回避支援・被害軽減技術	スマートブレーキサポート (SBS)	15km/h以上の速度域での走行中に、先行車と衝突の危険性がある場合、自動ブレーキにより減速を行い、衝突回避または被害軽減を図ります。
	スマートシティブレーキサポート (SCBS)	4～30km/hの速度域での走行中に、先行車と衝突の危険性がある場合、自動ブレーキにより減速・停止し、衝突回避または被害軽減を図ります。
	AT誤発進抑制制御	前方に障害物が検知された状態で、必要以上にアクセルを踏み込んだ場合、警告音とメーター表示でドライバーに注意を促すとともに、エンジン出力を抑え急発進を抑制します。

デザインテーマ “魂動(こどう) – Soul of Motion”

マツダはこれまで、さまざまな「動き」のある造形を模索してきました。その模索の中でマツダデザインがたどり着いたのは、生物が見せる一瞬の動きの強さや美しさです。この一瞬の動きをMotion Formの究極の姿として見出し、その生命感あふれる動き、心ときめかせる動きを“魂動(こどう)”と定義しました。そして、この“魂動(こどう) - Soul of Motion”というデザインテーマのもと、“動き”の表現を深化させていきます。



左から「マツダ CX-5」「マツダ アテンザ」「マツダ アクセラ」

1920ー

経営

1920年	1月	東洋コルク工業株式会社として創立、海塚新八社長就任	1977年	12月	山崎芳樹社長就任
1921年	3月	松田重次郎社長就任	1978年	11月	ロータリーエンジン車生産累計100万台達成
1927年	9月	東洋工業株式会社に改称	1979年	6月	自動車生産累計1,000万台達成
1929年	4月	工作機械の製作開始		11月	フォードとの資本提携を開始
1931年	10月	3輪トラック「マツダ号」を生産開始	1981年	12月	防府中関変速機工場稼働開始
1932年	ー	大連、奉天、青島へ3輪トラック初輸出			「オートラマ」を設立（'82年10月より商品供給開始）
1935年	10月	さく岩機の生産開始	1982年	9月	防府西浦工場本格操業開始
1945年	8月	建物の一部を広島県に貸与、県庁の全機構が当社に移される（〜'46年7月）	1983年	4月	コロンビアで現地生産開始（CCA設立）
1949年	8月	3輪トラック輸出再開（インド）	1984年	5月	マツダ株式会社へ社名変更
1951年	12月	松田恒次社長就任		10月	マツダ財団設立
1961年	7月	独NSU社、バンケル社とロータリーエンジンに関し技術提携		11月	山本健一社長就任
1962年	1月	韓国で現地組立開始	1985年	1月	米国生産会社（MMUCのちのAAI）を設立
1963年	3月	自動車生産累計100万台達成		3月	マツダ北京事務所設立
	6月	南アフリカで現地組立開始	1986年	4月	ロータリーエンジン車生産累計150万台達成
1965年	1月	英国パーキンスサービス社とディーゼルエンジンに関し技術提携		12月	マツダR&Dセンター、アナーバー（米国）完成
	5月	三次自動車試験場完成	1987年	4月	生産累計2,000万台を達成
1966年	11月	宇品乗用車専用工場完成		6月	技術研究所横浜研究所開設
1967年	3月	欧州向け本格輸出開始		12月	古田徳昌社長就任
	4月	オーストラリアに販売会社を設立			スズキ（株）（鈴木自動車工業）との軽自動車生産協力を発表
1968年	7月	カナダに販売会社を設立	1988年	5月	マツダR&Dセンター、アーバイン（米国）完成
1969年	4月	ロータリーエンジン車本格輸出開始	1989年	4月	「ユーノス」「オートザム」設立
1970年	4月	対米輸出開始		6月	東京支社を東京本社に呼称変更
	11月	松田耕平社長就任	1990年	5月	マツダ欧州R&D事務所（MRE）完成
1971年	2月	マツダモーターオブアメリカ（MMA）設立		12月	生産累計2,500万台達成
1972年	10月	マツダトレーニングセンター鯛尾完成	1991年	6月	第59回ル・マン24時間レースでマツダ787Bが日本車史上初の総合優勝
	12月	自動車生産累計500万台達成		11月	「マツダオート」チャンネルを「アンフィニ」に変更
1974年	4月	三次ディーゼルエンジン工場完成		12月	和田淑弘社長就任
1975年	1月	タイで現地組立を開始			

商品

1931年	10月	マツダ初の自動車、3輪トラック「マツダ号」新発売	1970年	5月	「カベラ」新発売
1950年	6月	マツダ初の小型4輪トラック「CA車」新発売	1971年	9月	「グランドファミリア」新発売
1958年	4月	小型4輪トラック「ロンパー」新発売（後に「Dシリーズ（クラフト）」「Eシリーズ（タイタン）」へ派生）			「サバンナ」新発売
1960年	5月	軽乗用車「R360クーペ」新発売	1972年	6月	軽乗用車「シャンテ」新発売
1961年	2月	軽4輪トラック「B360」新発売（後に「ポーター」へ改称）	1975年	3月	「ロードベーター」新発売
	8月	小型4輪トラック「B1500」新発売（後に「プロシード」へ改称）		10月	「コスモ」新発売
1962年	2月	軽乗用車「キャロル」新発売	1978年	3月	「サバンナRX-7」新発売
1963年	10月	「ファミリア800バン」新発売	1980年	12月	5代目「ファミリア」が「1980-1981日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
1964年	10月	「ファミリアセダン」新発売	1982年	12月	4代目「カベラ（テルスター）」が「1982-1983日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
1965年	5月	ライトバス新発売（後に「パークウェイ」へと改称）	1983年	6月	「ボンゴブローニイ」新発売
1966年	5月	「ボンゴ」新発売	1986年	2月	「フェスティバ」新発売
	8月	「ルーチェ」新発売	1987年	1月	「エチュード」新発売
1967年	5月	初のロータリーエンジン搭載車「コスモスポーツ」新発売	1988年	10月	「ヘルソナ」新発売
1969年	4月	軽4輪トラック「ポーターキャブ」新発売	1989年	6月	「スクラム」新発売（スズキ（株）からのOEM）
	10月	中型トラック「ボクサー」新発売		9月	「ユーノスロードスター」新発売
				11月	「ユーノス100」「ユーノス300」新発売
			1990年	1月	「MPV」新発売
				4月	「ユーノスコスモ」新発売
				9月	「レビュー」新発売
			1991年	5月	「センティア」新発売
				6月	「ユーノスプレッソ」「AZ-3」新発売
				10月	水素RE自動車「HR-X」を東京モーターショーで発表
					「クロノス」新発売
				11月	「アンフィニMS-6」「アンフィニMS-9」新発売

1992年	2月	防府第2工場が本格操業を開始	2000年	4月	通商産業省の支援による燃料電池電気自動車の実車走行試験・共同プロジェクトに参加
	4月	「マツダ地球環境憲章」を制定		6月	全国生産拠点でISO14001認証を取得
	9月	中国で現地生産を開始		7月	メディアウェブサイトを開設
1993年	3月	環境に関する行動推進計画を策定			マツダ、乗用車共通の「ブランドDNA」を策定
	5月	米国AAIでの生産累計100万台達成		8月	タイ製ピックアップトラックが生産累計10万台を達成
1994年	11月	国内自動車メーカーで初めて「ISO9002」規格の認証を取得		11月	中期経営計画「ミレニアムプラン」を発表
1995年	4月	生産累計3,000万台達成	2001年	1月	低コストの塗膜除去技術を活用した回収バンパー再生材の用途を拡大し、新車のバンパー補強用部品に採用
	11月	タイでAAT設立（工場着工は翌年2月）		2月	日本初、インターネットを使った受注生産（BTO）を開始
1996年	4月	「アンフィニ」店を「マツダアンフィニ」店に呼称変更		9月	宇品第2工場を閉鎖（〜'04年5月）
		「ユーノス」店を「マツダアンフィニ」店または「マツダ店」に統合	2002年	1月	防府工場が累計生産台数500万台を達成
	6月	開発からアフターサービスまでカバーする「ISO9001」を国内自動車メーカーで初めて取得			北海道 中札内試験場を竣工
		ヘンリーD. G. ウォレス社長就任			MZRエンジンの生産を国内で開始
1997年	6月	「新ブランドシンボル」を制定		3月	事業所内保育施設「わくわくキッズ園」を設置
	10月	北米事業を統合（MNAOスタート）		4月	新ブランドメッセージ「Zoom-Zoom」を展開
	11月	ジェームズE. ミラー社長就任		5月	執行役員制度を導入するなどコーポレートガバナンスを強化
	12月	倫理委員会を設置		6月	ルイス・ブース社長兼CEO就任
1998年	1月	社章を変更		8月	マツダレンタリースのリースカー事業を住銀オートリースに売却
	3月	欧州事業を統合（現MMEスタート）		9月	マツダアステック（さく岩機製造）をサンドビックグループに営業譲渡
	4月	プロダクトフィロソフィーを制定		12月	経営諮問委員会を設置し、コーポレートガバナンスを強化
	5月	AATで生産開始	2003年	1月	新世代ロータリーエンジン「RENESIS」の生産を開始
	8月	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V.（MLE）を設立			中国一汽乗用車で「Mazda6」の生産開始
	9月	防府工場・西浦工場がISO14001を取得			フォード バレンシア工場（欧州）で「Mazda2」の生産を開始（〜'07年6月）
	12月	AATより輸出開始		7月	いすゞ（株）と小型トラックのOEM供給で合意
1999年	6月	AAIが生産累計200万台を達成		8月	井巻久一社長兼CEO就任
		三菱自動車と小型商用車のOEM供給で合意			
	9月	防府工場が環境ISO認証の取得を完了			
	12月	マーク・フィールズ社長就任			

1992年	1月	「MX-6」新発売	2000年	7月	「ロードスター」が“世界で最も多く生産された2人乗り小型オープンスポーツカー”としてギネスに認定（565,779台）
	2月	「ユーノス500」新発売		10月	「タイタンダッシュ」新発売
	3月	「アンフィニMS-8」新発売		11月	「トリビュート」新発売
	5月	「クレフ」新発売	2001年	2月	燃料電池自動車「プレマシーFC-EV」を開発、国内初の公道走行試験を開始
	10月	軽自動車「AZ-1」新発売		12月	新世代モジュール基材用の高強度プラスチック技術を開発
	11月	天然ガスエンジン搭載乗用車を開発	2002年	2月	軽自動車「スピアーノ」新発売（スズキ（株）からのOEM）
1993年	1月	「ユーノスロードスター」ベースの高性能電気自動車を開発		5月	次世代商品第一弾として、「アテンザ」新発売
	4月	ミラーサイクルエンジンの開発に成功		7月	機械加工時の切削液の使用量を大幅削減する「セミドライ加工」で環境への負荷を軽減
	9月	「ランティス」新発売			世界初の環境にやさしい「スリー・ウエット・オン塗装技術」を開発し、揮発性有機化合物と二酸化炭素（CO ₂ ）を削減
	10月	「ユーノス800」新発売		11月	初代「アテンザ」が「2003RJCカー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
1994年	2月	「タイタン」天然ガストラックを開発		12月	先進安全自動車（ASV）の公道走行試験を開始
	9月	軽自動車「AZ-ワゴン」新発売（スズキ（株）からのOEM）	2003年	2月	摩擦熱を利用したアルミ材接合技術の世界で初めて開発
		商用車「ファミリアバン」、日産自動車（株）からのOEM供給に（5代目）		4月	優れた歩行者保護性能を持つ衝撃吸収構造アルミボンネットを開発
1995年	2月	「プロシードレバンテ」新発売（スズキ（株）からのOEM）		5月	PM排出量を現行比で75%以上削減するディーゼルエンジン用の排出ガス低減技術を開発
	6月	「ボンゴフレンディ」新発売		6月	「RENESIS」が「国際ナショナル・エンジン・オブ・ザ・イヤー2003」を受賞
1996年	8月	「デミオ」新発売		9月	塗膜除去率を99.9%まで高めるバンパーサイクルのための新技術を開発し、「バンパー-toバンパー」リサイクルを実現
	10月	初代「デミオ」が「RJCニュー・カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞		10月	「アクセラ」新発売
1997年	12月	燃料電池電気自動車「デミオFCEV」を開発		11月	「RENESIS」が「RJCテクノロジー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
1998年	5月	小型キャブオーバーバンの電気自動車「ボンゴEV」を発売			「RX-8」が「2004RJCカー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
	10月	軽自動車「AZ-オフロード」新発売（スズキ（株）からのOEM）		12月	「Mazda6」が中国の「2004年カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
		軽自動車「キャロル」、スズキ（株）からのOEM供給に（4代目）			
1999年	3月	軽自動車「ラピュタ」新発売（スズキ（株）からのOEM）			
	4月	アルデヒド除去剤「ライフ・プレス」を開発			
		「プレマシー」新発売			

2004ー

経営

2004年	2月	販売系列全店で軽自動車の扱いを開始、登録車も併売を拡大	2007年	3月	新中期計画「マツダ アドバンスメント プラン」を策定 技術開発の長期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言」を策定
	4月	国内生産体制再編のため、本社第1工場での生産を終了		4月	長安フォードマツダエンジン工場(南京)でのエンジン量産開始
	5月	国内生産体制再編のため、宇品第2工場を再稼働		5月	厚生労働省の次世代認定マーク「くるみん」を取得
	9月	マツダレンタカーの全株式を譲渡			
2005年	12月	宇品第1工場で火災発生	2008年	7月	国内生産累計4,000万台を達成 AATが生産累計100万台を達成 業界初となる、V型6気筒エンジンと直列4気筒エンジンの混流生産を実現 専用コンテナでの鉄道往復輸送によるグリーン物流システムを構築
	2月	本社敷地内に水素ステーションを開設 創業85周年を機に「マツダミュージアム」全面リニューアル		10月	「Mazda2」を長安フォードマツダ南京工場で生産開始
	4月	広島大学大学院工学研究科と自動車の先進技術の研究協力で契約 新生宇品第1工場塗装ライン稼働		2月	日本初の「人権擁護功労賞」受賞
	5月	マツダ地球環境憲章を改訂し、環境への取り組みをグループでの強化へ拡大		3月	自動車販売金融事業における戦略的提携を実施
2006年	6月	中国事業を統括する「マツダ(中国上海)管理諮詢有限公司(MCO)」の開所式を実施		4月	国内販売会社に環境マネジメントシステム「エコアクション21」を導入
	8月	統括会社「マツダサウスイーストアジア リミテッド(MSEA)」をタイに設立 中国技術支援センターを開設		6月	ブランドを視覚的に表現するグローバル・ビジュアル・アイデンティティを導入 CO ₂ 排出量削減に向けた取り組みを発表 ー2015年までにグローバルでマツダ車の燃費を30%向上ー
	1月	三菱商事とエネルギー供給会社「MCMエネルギーサービス(株)」を設立		7月	全国規模の部品販売会社、マツダパーツ株式会社を設立
	2月	「Mazda3」を長安フォード重慶工場で生産開始		9月	シベリア鉄道を利用した車両輸送を開始
	4月	マツダオートザム 販売累計台数100万台達成		10月	マツダミュージアム来場者100万人達成
	5月	美祿自動車試験場を開設の開所式を実施		11月	山内孝社長兼CEO就任
	7月	自動車運搬船「クーガーエース」事故発生		12月	新広島市民球場の命名権契約を締結し、「Mazda Zoom-Zoom スタジアム広島」と命名
	9月	AAIが生産累計300万台を達成			
	10月	マツダオフィシャルウェブサイトを刷新			

商品

2004年	5月	「RENESIS」が「インターナショナル・エンジン・オブ・ザ・イヤー2.5～3.0リットル」部門賞を2年連続で受賞	2007年	6月	マツダ、広島地区におけるITS公道実証実験に参加
	6月	「ベリーサ」新発売		9月	植物由来100%の繊維からなる自動車内装用バイオフィブリックを開発
	10月	RX-8水素ロータリーエンジン車の公道走行を開始		10月	世界初となるシングルナノテクノロジーを活用した触媒材料構造を持つ自動車用触媒を開発
	11月	マツダのスリー・ウエット・オン塗装技術が地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞		11月	3代目「デミオ」が「2008年次RJCカーオブザイヤー」を受賞 ノルウェー国家プロジェクトHyNor(ハイノール)に参画し、2008年夏から水素ロータリーエンジン車をノルウェーに納入
2005年	3月	「バンパーtoバンパー」リサイクル技術をRX-8から新車のバンパーに導入開始	2008年	1月	「CX-9」が「2008 North American Truck of the Year」を受賞 広島地区の産学官共同でITS公道実証実験を実施 国内初のリアビークルモニタリングシステムを実用化
	4月	新生宇品第1工場塗装ラインにスリー・ウエット・オン塗装方式を採用		3月	3代目「Mazda2」が「2008世界カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞 先進安全自動車「マツダASV-4」の公道走行試験を開始
	6月	世界初、摩擦熱を利用した鉄とアルミ材の点接合技術を開発		6月	食糧と競合しないバイオプラスチックの技術開発に、産学官連携で2013年までの実用化を目指して着手 「マツダ プレマシー ハイドロジェンREハイブリッド」の国土交通大臣認定を取得
	7月	新開発した下塗り塗料により、塗装工程における環境負荷をさらに低減		7月	「ピアンテ」新発売
2006年	11月	3代目「ロードスター」が「2005-2006日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞		9月	直噴エンジンの技術を活用した独自のアイドリングストップ機構「アイ・ストップ(i-stop)」を開発 出力性能と環境性能を大幅に向上させた新型クリーンディーゼルエンジンを開発 樹脂の使用量を30%削減できるプラスチック成形技術を開発
	2月	水素ロータリーエンジン車「RX-8ハイドロジェンRE」の限定リリース販売を開始			
	5月	産学官の連携で、自動車内装部品用至高強度、高耐熱性を持つバイオプラスチックを開発			
	11月	「MPV」2.3L DISIターボエンジン車がエコプロダクツ大賞推進協議会会長賞(優秀賞)を受賞			
2006年	12月	「CX-7」新発売			

2009年	3月	「マツダ(中国)トレーニングセンター」を北京、上海、深センに開設	2013年	1月	マツダとフィアット、アルファロメオ車の生産に向けた事業契約を締結	
	4月	一汽マツダ汽車販売有限公司に増資し、出資比率を25%から40%に引き上げ、販売網を強化		4月	山内孝会長 社長兼CEO(当時)が、メキシコの勲章「アギラ・アステカ勲章」を受章	
	7月	AAT新乗用車工場完成		7月	タイの新トランスミッション工場の起工式を実施	
	2010年	3月		トヨタとハイブリッドシステムの技術ライセンス供与に合意	8月	メキシコ新工場にエンジン機械加工工場の新設を発表
	4月	広島大学とマツダ財団の連携事業「科学わくわくプロジェクト」が、「平成22年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞」を受賞			国内の「SKYACTIV技術」エンジンの年間生産能力を100万基に増強を発表	
	9月	「ひろしまの森林(もり)づくりフォーラム」に加入し、「マツダの森」を通じた地域の森林保全活動に協力開始			防府工場の累計生産台数1,000万台を達成	
	2011年	1月		日産とマツダ、新たなOEM供給契約を締結		南アフリカに販売統括会社を設立
	2月	広島大学と包括的連携に関する協定を締結			広島市民球場の命名権を取得、球場名「Mazda Zoom-Zoom スタジアム広島」を継続	
	6月	住友商事とメキシコでの生産事業およびブラジルでの販売事業で合弁事業に合意 社外取締役制度を導入		2014年	1月	メキシコ新工場で量産開始
	10月	住友商事とメキシコ新工場の起工式を実施			2月	メキシコ新工場の開所式を実施
					3月	タイで新型「Mazda3」の生産を開始
					4月	中国で新型「Mazda6」と新型「Mazda3」の生産を開始
					5月	マレーシアの車両組立工場(マツダ車専用)が完成
	2012年	1月		マツダ病院の新棟(入院棟)を竣工		6月
5月		フィアット社とオープン2 シータースポーツカーの開発・生産に向けた協議を開始		7月	「アクセラ教習車」の累計生産台数が1万台を達成	
7月		「SKYACTIV-G」、「SKYACTIV-D」エンジンの年間生産能力を80万基に増強		7月	台湾の新販売統括会社が営業開始	
9月		ロシアのソラーズ社と、現地合弁生産会社「マツダソラーズ」を設立			新型「デミオ」の生産を防府工場で開始	
		マレーシアのベルマツ社との合弁会社「マツダ・マレーシア」を設立			国内市場での新コンセプトの販売店「新世代店舗」を公表	
11月		トヨタと、マツダのメキシコ新工場におけるトヨタ車の生産について合意			防府工場(中関)の「SKYACTIV技術」トランスミッションの生産能力を増強	
				8月	「MAZDA TECHNOLOGY FOR KIDS」、第8回キッズデザイン賞「内閣総理大臣賞」受賞	
				9月	タイで新型「Mazda2」を生産開始	
				10月	メキシコで新型「Mazda2」を生産開始	

2009年	1月	貴金属の使用量を約70%削減できるシングルナノ触媒を世界で初めて実用化	2012年	2月	「SKYACTIV技術」を全面採用し、先進安全技術「スマート・シティ・ブレーキ・サポート」を搭載した、新型クロスオーバーSUV「マツダ CX-5」を新発売			
	2月	マツダ、ITS合同実証実験「ITS-Safety 2010」に参加		6月	軽自動車「マツダ フレアワゴン」を新発売(スズキ(株)からのOEM)			
	3月	世界初の廃車バンパーリサイクル自動化技術を開発 日本メーカー初の乗用車用尿素SCRシステムを開発		10月	「デミオEV」のリース販売を開始			
		世界初のハイブリッドシステム搭載水素ロータリーエンジン車「マツダ プレマシー ハイドロジェンREハイブリッド」のリース販売を開始		11月	「マツダ CX-5 SKYACTIV-D2.2」が、「2012-2013日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー」を受賞			
	6月	世界で最も環境負荷の少ない新水性塗装技術「アクアテック塗装」を開発、宇品第一工場への導入を開始			先進安全技術「i-ACTIVSENSE(アイ アクティブセンス)」を搭載した、3代目「アテンザ」を発売			
	11月	「i-stop」が「2010年次RJCテクノロジーオブザイヤー」を受賞			「CX-5」が「2012-2013日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞			
		「i-stop」を搭載した「アクセラ」と「ビアンテ」が第6回エコプロダクツ大賞を受賞		2013年	1月	「プレマシー」をマイナーチェンジ		
		マツダ、「つくば環境スタイル実証プロジェクト」に参画し、電気自動車のベース車両として「マツダ デミオ」を提供			5月	「ビアンテ」をマイナーチェンジ		
	2010年	9月			9月	先進安全自動車「アテンザ ASV-5」の公道実証実験を開始		
	10月	次世代技術「SKYACTIV」を発表			11月	3代目「アクセラ」を発売		
	2011年	2月			「ロードスター」が累計生産90万台を達成、ギネス記録更新を申請		3代目「アテンザ」が「2013-2014日本カー・オブ・ザ・イヤー エモーショナル部門賞」を受賞	
		5月			「アクセラ」が世界累計生産300万台を達成		3代目「アテンザ」が「RJCカーオブザイヤー」を受賞	
		6月			高効率直噴ガソリンエンジン「SKYACTIV-G 1.3」を搭載した「デミオ」を発売	2014年	2月	「アクセラ」が世界累計生産400万台を達成
		9月			SKYACTIV技術搭載第2弾となる「アクセラ」を発売		4月	「SKYACTIV技術」搭載車のグローバル生産台数が100万台を突破
11月		「RX-8」の最後の特別仕様車「SPIRIT R」を発売	9月		新型「ロードスター」を世界初公開			
	新型エンジン「SKYACTIV-G 1.3」が「2012年次RJCテクノロジーオブザイヤー」を受賞		新型「デミオ」の予約販売を開始					
	乗用車用として世界で初めてキャバシターを採用した減速エネルギー回生システム「i-ELOOP」を開発	10月	新型「デミオ」が「2014-2015日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞					

■最新情報について

「会社の概要」および「役員」に関する情報に変更があった場合、最新の情報を下記URLのホームページにて掲載します。

<http://www.mazda.co.jp/corporate/profile/outline/library.html>

■マツダ株式会社のその他の情報開示ツール

会社概況に加えて、以下のツールでもマツダの考え方、活動、データの情報開示をしています。

サステナビリティレポート2014

マツダのCSR(企業の社会的責任)についての報告書

<http://www.mazda.co.jp/csr/download/index.html>

アニュアルレポート2014

マツダの投資家向け年次報告書

<http://www.mazda.co.jp/corporate/investors/library/annual/>

有価証券報告書など

http://www.mazda.co.jp/corporate/investors/library/s_report/

マツダ株式会社

発 行：マツダ株式会社 広報本部

広島本社：広島県安芸郡府中町新地3-1 〒730-8670

東京本社：東京都千代田区内幸町1-1-7 〒100-0011

発行年月：2014年10月

マツダコールセンター 0120-386-919

受付時間／月～金 9:00～17:00

土日・休日 9:00～17:00(12:00～13:00を除く)

マツダホームページURL

<http://www.mazda.co.jp/>

zoom-zoom
zoom-zoom
zoom-zoom